

fukudai Press

【ふくだいプレス】

45

2022.08

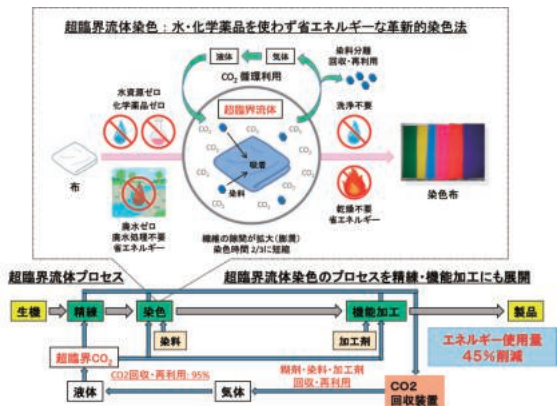
知っている？

この恐竜の愛称、

愛称は「ジュナナ」。福井県民を対象に行った公募で決定。SDGsのゴールの数である「17（じゅうなな）」とロゴマークのモチーフである恐竜が繁栄した「ジュラ紀」を掛けて考案されました。



「水を使わない超臨界流体による染色技術」により、従来技術からエネルギーを45%削減



産学官連携本部のイベント

9月6日(火)
JST新技術説明会
(オンライン開催)

10月4日(火)～10月31日(月)
JSTイノベーションジャパン
(オンライン開催)

※詳しくは産学官連携本部のホームページ
<http://www.hisac.u-fukui.ac.jp/>
でご案内します。



こんにちは！2018年夏号から始まったこのコラムでしたが、残念ながらしばらくお休みすることになりました。「学章の意味」をスタートに「アイデアを保護する権利」、「弁理士という職業」、「特許とジェネリック医薬品」、「成果の帰属について AIは?」、「大学が創出する知的財産とブランド」、「ネット上での著作権注意事項」、「特許の歴史」、「特許の権利化までの流れと費用」、「老舗の『のれん』と登録商標」、そして前号では「知的創造サイクル」と、皆さんに知財のよもやま話をしてきました。大学のミッションは知的財産を創出していくことで、その創出した財産を守り活用するのが知的財産部・技術移転部のミッションです。今度は、皆さんの創出した知的財産でお会いできるのを楽しみにしています。



過去のコラムはこちら ▶

5月に工学部物質・生命化学科の廣垣 和正准教授と本学発ベンチャー企業のサステナテック株式会社 堀 照夫代表取締役社長（福井大学 産学官連携本部 客員教授）による「無水・CO2無排出染色加工技術の開発」が、2022年度「NEDO先導研究プログラム／新技術先導研究プログラム」の「エネルギー・環境新技術先導研究プログラム」に採択されました。

本事業では、繊維の染色加工における全行程（精練・染色・機能付与）で、水に代わり超臨界二酸化炭素（scCO₂）を利用する技術を開発します。通常の染色では大量の水を使用しますが、scCO₂による染色（無水・CO₂無排出染色加工技術）は、压力容器の中で二酸化炭素を高温、高压にし、気体でも液体でもない超臨界流体と呼ばれる状態で繊維を染色します。染色加工の全工程で廃水を出さないため環境負荷の低減と工程の合理化の両面が期待できます。また、使用したCO₂の回収・再利用により、CO₂排出量を実質ゼロ近くまで削減することを見込んでいます。

この技術の確立に向け、福井大学、サステナテック株式会社を中心に、協力企業10社と京都工芸繊維大学、福井県工業技術センターが染料や薬剤の開発、衣料用繊維の種々に対応した染色整理・加工の研究を推進します。

世界初の本技術が確立できれば、日本の染色整理産業の基盤強化、国際競争力の再強化が図れ、加えて本技術の海外展開により、地球環境問題解決への貢献も期待できます。

本学の繊維研究が 2022年度「NEDO先導研究プログラム／ 新技術先導研究プログラム」に採択されました



NEWS 広報課が選んだ ふくだいニュース

イベント 1

3年ぶりの開催！
福井大学「越祭(こしのさい)2022」



毎年5月に文京キャンパスで開催される福井大学祭は、2020年、2021年と新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、今年は5月28日（土）、29日（日）の2日間、無事開催されました。越前の「越」から名前をとった「越祭(こしのさい)」という名称になった大学祭。「開花」をテーマにダンスやアカペラ、楽器の演奏など、一度しほんでしまった大学祭の活気を取り戻したいという思いでパフォーマンスが披露されました。学生による模擬店も賑わい、お茶会、書、写真の展示、折り紙で制作した恐竜の展示など、晴天に恵まれ3年分の思いが溢れた大学祭でした。



イベント 2

学内インターンシップ企業研究会を開催



本学キャリア支援課が「学内インターンシップ企業研究会 in 福井大学」を5月21日（土）、22日（日）に、文京キャンパスで行いました。新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの対面開催となった今回は、福井県内外の152の企業が午前と午後の部に分かれて出展し、会社概要やインターンシップ情報がブースで担当者から紹介されました。

就職活動を控える学部3年生と大学院1年生を主としつつ、学部の1、2年生も参加がOKだったことから、延べ約2,700人の学生が参加しました。企業のことを知りたい、これから将来を考えるために学びたいという学生が企業の担当者へ熱心に質問していました。

参加学生は「実際に対面して聞くと調べただけでは分らない情報が聞けた」「社会人はどの部署についてもその企業を説明できるよう学ぶ必要があることがわかった」と話すなど様々な視点で将来を考える機会となりました。